

令和7年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 18	公益目的事業 19
主査名	長田哲平 宇都宮大学准教授	
研究テーマ	物流実態からみた地方都市の中心市街地における駐車施設整備に関する研究**	
<p>人々が生活する上では様々な物資が必要であり、これらの物資を移動させるためには自動車をはじめとした交通手段による輸送が必要となる。輸送後には、交通手段を駐車施設などに停めて荷さばきがなされて物資を必要とする人のところに届ける物流が行われている。しかしながら、これらの物流は、インターネット通販やデリバリーなどによる多頻度小口配送が増加している中、2024年問題に伴う輸送能力の低下などともに、駐車施設の不足や適切な場所への配置がなされていないなどの課題がある。</p> <p>このような背景のもと、地方都市の中心市街地に目を向けると、規模は小さいが、大都市同様に物流の着施設となる商業施設やオフィス、マンションなどが立地しており多数の物流が行われている。一方で、地方都市の中心部においてもウォークアブルな空間が求められるとともに、電動キックボードなどの小型モビリティの普及や自転車、高齢者によるシニアカーなど複数のモビリティによる移動が発生している状況にある。また、研究対象とする栃木県宇都宮市では、LRT延伸やそれに伴うバスネットワークの再編が計画されており、中心市街地の道路空間などが大きく変わっていくことが明らかである。地方都市は、限られた空間の中で物流や人流が発生している状況にある。</p> <p>令和6年度研究により、宇都宮市の中心市街地における貨物車流動を中心とした物流実態が見えてきたことから、自転車や電動キックボードなどのモビリティや人の移動なども合わせて、中心市街地において効率的な物流のための駐車施設の配置や量とともに、将来に備えてルール策定方法などを検討することを目的とする。</p> <p>研究の方法として、まず地方都市の交通特性やモビリティや人の移動状況などを整理する。次に具体的な事例として、栃木県宇都宮市の中心市街地における交通特性やモビリティや人の移動状況と貨物車流動を中心とした物流実態を合わせて、駐車施設の配置や量などのルール策定方法などを検討する。そして、研究のまとめを実施する。</p>		